

分担研究報告書

（分担研究課題名）：若年がん患者の心理社会的状況調査

研究分担者 岡田 弘 所属施設名 職名 獨協医科大学埼玉医療センター

研究要旨

がん医療の進歩によりがん罹患後の心理社会的な QOL に関心が高まっており患者・家族にとっても医療者にとっても予後予測のための情報ニーズがあるにもかかわらず、男性がん患者・サバイバーの心理社会的状況を示す調査研究が少なく、とりわけ精子凍結の有無による精神状態の差を報告した研究はほとんど見当たらないという問題に対して、本研究は具体的な知見を提供するものである。

A. 研究目的

若年成人男性がん患者の心理社会的状況は

- 1) 健康な同年代の男性と異なるか
- 2) 妊孕性温存目的で精子凍結をした人と精子凍結をしなかった人と異なるか

の2点を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

調査時点から10年前までに精巣腫瘍・造血器腫瘍・骨軟部腫瘍のいずれかと診断され抗がん剤を使用した、現在20～49歳の男性患者のうち妊孕性温存目的で精子凍結した患者10名（全体100名）、精子凍結しなかった患者10名（全体100名）を対象として自記式アンケートを実施する。対象者には「協力お願い文書」を用いて説明し、自由意思により同意を得る。同意が得られた対象者には精子凍結の有無を尋ね該当するアンケート（無記名）を配布、記入後回収する。アンケート提出前の同意撤回は可能であるが、提出後の同意撤回は応じない。自記式アンケートの項目は以下の通り。【暴露群で精子凍結した者】がん診断時のがんの状態（罹患時年齢、がん種）、が

ん治療内容、精子凍結の有無、精子凍結の意思決定プロセス（情報収集、共有意思決定尺度日本語版、決定葛藤尺度日本語版、決定後悔尺度日本語版）、現在の心理状態（HADS；Hospital Anxiety and Depression Scale 病院不安・うつ尺度日本語版、IES-R-J；Impact of Event Scale-Revised 改訂出来事インパクト尺度日本語版、男性のQOL尺度）、将来的な心配事、がん治療中・治療後の援助の状況とニーズ、属性（年齢、職業、学歴、同居家族、婚姻・パートナーの有無）、施設番号。

【暴露群で精子凍結しなかった者】がん診断時のがんの状態（罹患時年齢、がん種）、がん治療内容、精子凍結の有無、現在の心理状態（HADS；Hospital Anxiety and Depression Scale 病院不安・うつ尺度日本語版、IES-R-J；Impact of Event Scale-Revised 改訂出来事インパクト尺度日本語版、男性のQOL尺度）、将来的な心配事、がん治療中・治療後の援助の状況とニーズ、属性（年齢、職業、学歴、同居家族、婚姻・パートナーの有無）、施設番号。調査データの分析は目的に従って、暴露群

と非暴露群で現在の心理状態、男性 QOL の差、精子凍結した者と凍結しなかった者で現在の心理状態、男性 QOL の差を比較することが中心となる。その際、属性、精子凍結時の意思決定プロセスの違いが上記に影響するかどうかとも検討する。

C. 研究結果

現在症例集積中であり、まだ結果を解析するに至っていない。

D. 考察

現在症例集積中で考察には至っていない。

E. 結論

現在症例集積中で結論には至っていない。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

1. A questionnaire survey on attitude toward sperm cryopreservation among hematologists in Japan: Kobayashi T., Okada H., et al.

Int J Hematol, 105(3), 349-352, 2017

2. Current states of sperm banking for young cancer patients in Japanese nationwide survey. : Yumura Y., Okada H., et al. Asian J Andrology, 20(4), 336-341, 2018

2. 学会発表

1. 第105回日本泌尿器科学会総会「血液内科に対する治療前精子凍結のアンケート調査」下村之人、岡田弘ら、2017. 4. 22@鹿児島

2. 第105回日本泌尿器科学会総会「小児及びAYA世代の男性がん患者に対する妊孕性

温存と対策」小堀善友、岡田弘、2017. 4. 23@鹿児島

3. 第26回日本小児泌尿器科学会総会「小児がん患者の妊孕性温存を目指した理想的な精巣組織凍結法の開発」福島麻衣、岡田弘ら、2017. 7. 7@名古屋

4. 第35回日本受精着床学会「思春期前男児に対する妊孕性温存のアプローチとしての精巣組織凍結保存」慎武、岡田弘ら、2017. 7. 20@米子

5. 第24回関東アンドロロジーカンファレンス「若年性がん患者の治療前精子凍結保存全国調査結果報告」湯村寧、岡田弘ら、2017. 9. 9@東京

6. 第62回日本生殖医学会「少数精子凍結におけるアガロースカプセルの有用性の検討」久保田麻衣、岡田弘ら、2017. 11. 17@下関

7. 第8回日本がん・生殖医療学会「男性がん患者に対する妊孕性温存療法の最新トピックス」岡田弘、2018. 2. 11@東京

8. 第106回日本泌尿器科学会総会「妊孕性温存を目的としたONCO-TESEの実際」寺井一隆、岡田弘ら、2018. 4. 19@京都

9. 第106回日本泌尿器科学会総会「精子運動率、精子生存率、精子酸化還元電位を保つ上で37度より25度条件下で優れている」鈴木啓介、岡田弘ら、2018. 4. 21@京都

10. 第36回日本受精着床学会総会「生殖医療における「精子学」」岡田弘、2018. 7. 26@千葉

11. アジアにおけるがん生殖医療（国際シンポジウム）「がん患者の妊孕性温存のための精子。精巣凍結」岡田弘、2018. 12. 22@東京

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案

該当なし

3. その他

該当なし